

職員自己評価項目一覧

令和 2年度

評価分類		内 容	A	B	C	D	
I 保 育 の 計 画 性	1	園の教育理念や教育目標を理解する	20%	60%	10%	05%	
		園の教育理念に基づいて教育目標について園長や保育者と話し合う	15	30	45	10	
	2	幼稚園教育要領の理解	0	20	40	15	
	3	園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成する	5	45	5	0	
		園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	5	45	5	0	
	4	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	15	30	5	0	
		指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものにする	10	45	5	0	
	5	環境の構成	安全で清潔感のある環境を構成する	35	70	5	0
			幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	20	45	15	0
			幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	15	60	20	5
			遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する	15	30	15	0
			楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	25	55	5	0
			幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する	20	55	0	0
			幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をする	15	50	5	5
			園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかす	15	65	5	0
			幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	10	60	10	0
			季節の変化に応じた環境の構成をする	10	60	10	0
	6	評価・反省	自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行う	15	65	10	0
			自分の保育を評価・反省することで、次の保育にいかす	30	60	5	0
II 保 育 の 在 り 方 、 幼 児 へ の	1	朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確認する	55	60	0	0	
		けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行う	40	50	5	0	
		園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	40	75	0	0	
		園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	60	55	0	0	
	2	幼児理解	一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る	40	70	0	0

対 応		○幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめる	45	65	5	0		
		○個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	35	65	5	0		
		○幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	40	75	0	0		
		○幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知る	45	55	0	0		
		○幼児の理解のために家庭との連携をとる	25	45	20	0		
		○幼児の姿を多面的に捉えるように心がける	40	65	0	0		
	3	指 導 と か か わ り	○幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	60	40	0	0	
			○幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使う	50	40	10	0	
			○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしない	70	30	0	0	
			○善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がける	70	30	0	0	
			○幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	60	40	0	0	
			○幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	65	35	0	0	
			○幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がける	40	55	5	0	
			○幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する	50	45	5	0	
			○幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	40	55	5	0	
			○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	45	45	10	0	
			○幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない	85	15	0	0	
	4	保 育 者 同 士 の 協 力 ・ 連 携	○クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がける	45	55	0	0	
			○クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	20	55	20	5	
			○幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	40	45	15	0	
			○他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする	20	60	15	5	
	Ⅲ 保 育 者 と し て の 資 質 と 能 力	1	専 門 家 と し て の 能 力 ・ 姿 勢 ・ 義 務	○幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解する	35	60	5	0
				○保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	45	45	5	0
				○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける	40	50	5	5
				○幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにする	55	40	5	0
				○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	60	55	0	0
				○服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がける	60	40	0	0
○職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る				80	20	0	0	

IV 保護者への対応	2	組織の一員としての在り方	○園の重要書類は持ち出さない	80	20	0	0	
			○締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る	50	45	5	5	
			○教職員全員で一つのチームであることを自覚する	50	45	5	0	
			○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努める	50	45	5	0	
			○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	45	55	0	0	
			○当番や役割による仕事は確実にを行う	50	45	5	0	
	3	保育の楽しみ・喜び	○園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さない	55	40	5	0	
			○幼児の成長を自分の喜びと感じる	60	40	0	0	
	V 地域の自然や社会とのかかわり	1	情報の発信と受信	○幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる	65	35	0	0
				○保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	20	70	0	0
		2	守秘義務の遵守	○保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	40	60	0	0
				○保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う	80	15	5	0
3		対応上のマナー・心がまえ	○個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない	85	15	0	0	
			○日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにする	45	50	5	0	
			○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	45	55	0	0	
4		クレームへの対処の仕方	○保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	40	60	0	0	
			○保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をする	25	75	0	0	
VI 研修と研		1	地域の自然・人々とのかかわり	○クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処する	15	75	10	0
				○地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける	60	40	0	0
				○地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	25	50	25	0
	2	小学校との連携	○地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする	5	25	45	15	
			○小学校の教育内容について理解するよう努める	5	45	20	5	
	3	子育ての支援と地域への開放	○地域の小学校の行事や公開授業に関心をもつ	0	35	25	5	
○子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解する			0	45	30	10		
1	研修・研究への意欲・態度	○子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合う	0	30	30	20		
		○研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	0	30	5	5		
		○自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行う	0	45	5	0		
			○自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	0	40	15	0	

究	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	○幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	0	15	25	5
			○記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	0	25	15	5
			○教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	0	20	15	5
			○保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	0	20	20	5
			○幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	0	25	15	5
			○保護者への対応に関する研修・研究を行う	0	15	30	5
			○地域社会との交流に関する研修・研究を行う	0	15	20	10
			○保育者同士の協力・連携に関する研修・研究を行う	0	15	20	5
	3	今日的課題に関する研修・研究	○アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する	10	45	10	0
			○障がいのある幼児の理解と対応について研修する	5	20	50	0
			○預かり保育や子育ての支援について研修する	5	10	55	5
			○幼小連携の必要性や具体的方策について研修する	0	15	50	5
			○危機管理の必要性と対応について研修する	0	25	25	0